

# 外部環境評価 事前評価シート

## 環境基本計画の体系

I 地球環境	i 地球温暖化の防止	1 エネルギー対策		
項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
8	市民活動推進課	えびな市民活動センターの維持管理	3	3
24	環境課	環境啓発活動の促進	3	3
68	就学支援課	海老名市食の創造館の維持管理	2	3
評価の点数	外部評価の結果		評価者	
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた		大橋委員	
判断理由及び評価内容				
<p>1. 「えびな市民活動センターの維持管理」で「共有スペースの可動間引き」など工夫した地道な節電対策に取り組んでいる。評価できます。</p> <p>2. 「海老名市食の創造館の維持管理」でガスの目標値の設定と実績で見込み違いは有ったものの地道に取り組んで開館日全日省エネパトロール実施など毎日の積み上げの努力は評価できます。</p> <p>3. 「環境啓発活動の促進」では、令和元年の課題・問題点として「EMS等を活用した仕組みづくり」を掲げていますが「研修の工夫」「取り組み範囲の見直し」の具体策と効果が見えない。「職員の環境配慮の意識」「CO2削減の身近に感じる機会」の増大につながる「EMSの活用」をどう実施して目標達成するかの方筋を見せていただきたい。</p> <p>4. 「エネルギー対策」としては上記1～3から個別活動の積み上げで評価3とします。</p>				

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	えびな市民活動センターの維持管理		事業コード	8
部	市民協働部	課	市民活動推進課	
計画体系	I 地球環境			
	i 地球温暖化の防止			
	1 エネルギー対策			
目的目標	空調機器の温度・照明機器照度の適切な設定による電気使用量の削減、事務用紙使用量の削減、ごみの分別の徹底等に努めることで、環境に配慮した施設運営を行います。			
目標指標	目標値		実績値	
都市ガス使用量	前年比4%削減 (121,828m <sup>3</sup> )		前年比13%削減 (112,057m <sup>3</sup> )	
電気使用量	前年比2%削減 (1,469,305kwh)		前年比6%削減 (1,417,749kwh)	
	有益影響		有害影響	
平成30年度	電気使用量の削減、紙使用量の削減 ごみの分別化、温室効果ガスの削減		なし	
令和元年度	電気使用量の削減、紙使用量の削減 ごみの分別化、温室効果ガスの削減		なし	
令和2年度	電気使用量の削減、紙使用量の削減 ごみの分別化、温室効果ガスの削減		なし	
	想定されるコミュニケーション		コミュニケーションへの対応	
平成30年度	施設に対する公害苦情		迅速な現場対応、ごみ分別化の徹底	
令和元年度	施設に対する公害苦情		迅速な現場対応、ごみ分別化の徹底	
令和2年度	施設に対する公害苦情		迅速な現場対応、ごみ分別化の徹底	
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>(1)使用していない居室の空調を止める・共有スペースの可動間引きにて、節電に努めました。</p> <p>(2)居室の空調電源スイッチ付近に「節電にご協力ください」と記載されたテープを貼り、利用者にも節電を呼びかけました。</p> <p>(3)事務用紙の使用量を削減するために、片面印刷をする際、不要になった紙の裏面に印刷するよう努めました。</p> <p>(4)ごみの分別化を徹底しました。</p> <p>(5)日中、不要箇所の照明点灯せず、節電に努めました。</p>			
平成30年度	<p>(1)居室の電源スイッチ付近に「節電にご協力ください」と記載されたテープを貼り、利用者にも節電を呼びかけました。</p> <p>(2)事務用紙の使用量を削減するために、片面印刷をする際、不要になった紙の裏面に印刷するよう努めました。</p> <p>(3)ごみの分別化を徹底しました。</p> <p>(4)使用していない居室の空調を止め、節電に努めました。</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>今年度は利用者への冷暖房等の使用の削減についての掲示や呼びかけを行うことにより、年間通して削減することができました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休館（令和2年3月2日～3月31日）により、3月においてはほとんどの居室を使用していなかったため、前年比13%の削減となりました。次年度以降も引き続き、削減への呼びかけや使用していない居室の空調を止める、共用部分の温度設定に配慮し、削減に努めます。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課 環境評価	3	節電の呼びかけ等による利用者の意識向上が見られ、前年に比べ削減につながったことが見受けられるため、担当部課環境評価は3としました。	
	内部 環境評価	3	担当部課環境評価を支持します。今後も節電及び用紙使用削減に取り組んでください。	

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	環境啓発活動の促進		事業コード	24
部	経済環境部	課	環境課	
計画体系	I 地球環境			
	i 地球温暖化の防止			
	1 エネルギー対策			
目的目標	<p>地球温暖化を始めとした環境問題の解決に向け、市民や事業所の環境意識の高揚と環境配慮行動の実践の促進を図ります。</p> <p>併せて、平成42(2030)年度までに、公共施設及び公用車から発生する温室効果ガスの排出量を平成25(2013)年度比-26.0%の水準にすることを目標とし、職員の環境配慮意識の啓発及び省エネ対策実施するよう要請を行います。</p>			
目標指標	目標値	実績値		
環境啓発活動の実施	15回	16回		
温室効果ガスの削減	2013年度比-5.7%	2013年度比-2.0% (暫定値)		
地球温暖化対策実行計画の改定	令和元年3月改定	令和元年3月改定		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	市民の環境意識の高揚、環境配慮行動の実践、地球温暖化対策の推進による温室効果ガスの削減	イベント開催に伴う紙類等資源使用量の増加		
令和元年度	市民の環境意識の高揚、環境配慮行動の実践、地球温暖化対策の推進による温室効果ガスの削減	イベント開催に伴う紙類等資源使用量の増加		
令和2年度	市民の環境意識の高揚、環境配慮行動の実践、地球温暖化対策の推進による温室効果ガスの削減	イベント開催に伴う紙類等資源使用量の増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	イベント開催内容の見直し等の意見・要望、市内公共施設における省エネ対策に関する相談	参加者へのアンケートの実施等による効果的な環境啓発活動の考察、国等の省エネ対策補助事業に関する情報提供		
令和元年度	イベント開催内容の見直し等の意見・要望、市内公共施設における省エネ対策に関する相談	参加者へのアンケートの実施等による効果的な環境啓発活動の考察、国等の省エネ対策補助事業に関する情報提供		
令和2年度	イベント開催内容の見直し等の意見・要望、市内公共施設における省エネ対策に関する相談	参加者へのアンケートの実施等による効果的な環境啓発活動の考察、国等の省エネ対策補助事業に関する情報提供		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>イベントを開催し、環境保全に関する普及啓発を実施          広報えびな、ホームページ、ポスター・パンフレットの掲示により市・環境省・県の事業等を市民に向けて情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境講演会 参加者215人 6/22 文化会館小ホール</li> <li>・環境展 出展団体18団体 6/4~6/14 市役所エントランスホール</li> <li>・エコカーフェスタ (バス利用者感謝デーと同時開催) 来場者1万6千人 10/19 海老名駅西口中心広場</li> <li>・ライトダウンキャンペーン 6/21、7/7</li> <li>・クールチョイス・クールビズ・ウォームビズ等</li> </ul> <p>また、各課へエネルギー使用量の削減や環境配慮活動の呼びかけを行うと同時に、取組状況の把握に努めました。</p> <p>しかし猛暑が続いたことや施設利用の変更により電気使用量等の増加によりCO2排出量が暫定値で約-2.0%の削減に留まりました。</p> <p>こうした状況を踏まえて、市の事務事業に起因する温室効果ガス削減を推進するとともに市域の温室効果ガス削減に向けて、昨年度に実施した省エネ診断等の結果をもとに、国の計画と同等(2030年度における市の事務事業に起因する温室効果ガスを基準年度比40%削減)の目標を設定した海老名市地球温暖化対策実行計画に改定しました。</p>			

平成30年度	<p>イベントを開催し、環境保全に関する普及啓発を実施          広報えびな、ホームページ、ポスター・パンフレットの掲示により市・環境省・県の事業等を市民に向けて情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境講演会 参加者362人 6/22 ビナレッジホール</li> <li>・環境展 出展団体20団体 6/5～6/16 市役所エントランスホール</li> <li>・エコカーフェスタ（バス利用者感謝デーと同時開催） 来場者1万5千人 11/11 海老名駅西口中心広場</li> <li>・ライトダウンキャンペーン 6/21、7/7</li> <li>・地球温暖化推進員の募集</li> <li>・クールチョイス・クールビズ・ウォームビズ等</li> </ul> <p>また、各課へエネルギー使用量の削減や環境配慮活動の呼びかけを行うと同時に、取組状況の把握に努めました。          しかし猛暑が続いたことや施設利用の変更により電気使用量等の増加によりCO2排出量が暫定値で約3.8%増加してしまいました。          こうした状況を踏まえて、市の事務事業に起因する温室効果ガス削減を推進するため、環境省の補助金を活用して、公共施設における運用改善及び設備改修によるCO2削減効果を調査する省エネ診断を実施しました。</p>
--------	--

令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点

改定した地球温暖化対策実行計画に掲げる目標の実現に向けて、計画で取り組むこととしている各種方策について着実に推進するため、職員各自の地球温暖化対策への理解を深めるとともに、EMS等を活用した仕組みづくりを検討し、実践していく必要があります。

評価区分		評価	判断理由及び内容
環境評価	担当部課 環境評価	3	CO2削減率は目標に達しませんでした。その他については目標を達成しており、その過程でも、様々な機会を捉えて市民等に向けた環境に関する周知啓発を実施できました。地球温暖化対策実行計画についても改定により、内容を充実させることができたと考えるため、概ね計画どおり環境配慮を実施できたと判断します。
	内部 環境評価	3	担当部課評価を支持します。 一部の目標値は達していないものの、CO2削減に向けた取組みが積極的に行われていることから、概ね計画通りの環境配慮の実施を確認できました。今後は、目標値の達成のため、さらなる取組みの強化によりCO2削減を推進されることを期待します。

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	海老名市食の創造館の維持管理		事業コード	68
部	教育部	課	就学支援課	
計画体系	I 地球環境			
	i 地球温暖化の防止			
	1 エネルギー対策			
目的目標	施設を改修する際には、省エネルギータイプの機器への更新等、環境に配慮した施設を目指します。 日常的な運営については、省エネ、ごみの分別及びリサイクルに努めます。			
目標指標	目標値		実績値	
都市ガス使用量の削減	前年比 2%減		前年比 3.97%増	
電気使用量の削減	前年比 2%減		前年比 6.94%減	
施設管理上の省エネ活動(省エネパトロール)	開館日全日		開館日全日	
	有益影響		有害影響	
平成30年度	省エネやりサイクルに努めた施設の維持管理	照明等使用による温室効果ガスの増加 自動車使用による排気ガスの増加		
令和元年度	省エネやりサイクルに努めた施設の維持管理	照明等使用による温室効果ガスの増加 自動車使用による排気ガスの増加		
令和2年度	省エネやりサイクルに努めた施設の維持管理	照明等使用による温室効果ガスの増加 自動車使用による排気ガスの増加		
	想定されるコミュニケーション		コミュニケーションへの対応	
平成30年度	近隣住民からの苦情	迅速な現場対応		
令和元年度	近隣住民からの苦情	迅速な現場対応		
令和2年度	近隣住民からの苦情	迅速な現場対応		
具体的活動の内容				
令和元年度	(1) 都市ガス使用量	実績	今年度使用量	171,281m <sup>3</sup>
			前年度比	3.97%増
	(2) 電気使用量	実績	今年度使用量	628,077KWh
			前年度比	6.94%減
	(3) 施設管理上の省エネ活動(省エネパトロール) 実績 241回(開館日全日)			
平成30年度	(1) 都市ガス使用量	実績	今年度使用量	164,733m <sup>3</sup>
			前年度比	8.38%減
	(2) 電気使用量の削減	実績	今年度使用量	674,979KWh
			前年度比	1.56%増
	(3) 施設管理上の省エネ活動(省エネパトロール) 実績 244回			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
都市ガスの使用量については、今年度は増加に転じ、電気の使用量については昨年度と比べ減少した。会議室の利用頻度、イベント等の実施状況、気候等により数値にばらつきは発生するが、それらの状況(数値)把握にも努めること、かつ、こまめな省エネ活動を積極的に行い、使用量の削減に努めたい。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	2	目標数値を達成できなかったことは、現場勤務者とも連携の上、理由を洗い出し、今年度の目標達成に生かしたい。 その他には、施設の利用頻度と数値の相関状況を把握し、実態把握に努めたい。	
内部環境評価	3	担当部課環境評価の内容を修正します。 ガス使用量については目標値の達成に至りませんでした。開館日全日に省エネパトロールを実施したこと、また、開館日数が例年とほぼ変わらない中で、過去数年間増加を続けていた電気使用量が目標値を上回る削減を達成したことを評価します。 引き続き定期的なパトロール及び省エネ活動の継続をお願いします。		

# 外部環境評価 事前評価シート

## 環境基本計画の体系

I 地球環境	i 地球温暖化の防止	2 自動車対策
--------	------------	---------

項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
6	管財課	庁用車両管理事業	3	3
40	都市計画課	コミュニティバスの運行	3	3

評価の点数	外部評価の結果	評価者
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた	伊藤委員

## 判断理由及び評価内容

公用車は適正に管理されていると思われます。また、次世代自動車の導入も計画通り進捗しているようです。「令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点」欄に記述されている「自動車の削減が可能か研究したい」については一歩踏み込んだ提案であり、結果に期待します。

コミュニティバスの運行に関して、利用促進に関する情報はホームページで発信しているとのことであるが、当初から運行している国分ルートと上今泉ルートでは前年度に比べて利用者数が減少している。こういう結果を踏まえて原因を考え、それに対応した情報発信が必要ではないのでしょうか？

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	庁用車両管理事業		事業コード	6
部	財務部	課	管財課	
計画体系	I 地球環境			
	i 地球温暖化の防止			
	2 自動車対策			
目的目標	公用車を適正に維持管理します。 車両更新時には、環境面を配慮した低公害車やハイブリッド車両の購入を進めることで、地球環境の維持・向上に努めます。			
目標指標	目標値	実績値		
管財課所管の公用車に対する次世代自動車の割合	20.00%	23.66%		
安全運転講習の実施	年1回	年1回		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	温室効果ガス削減及び大気汚染防止資源枯渇リスクの軽減	自動車使用による燃料消費及び排気ガスの増		
令和元年度	温室効果ガス削減及び大気汚染防止資源枯渇リスクの軽減	自動車使用による燃料消費及び排気ガスの増		
令和2年度	温室効果ガス削減及び大気汚染防止資源枯渇リスクの軽減	自動車使用による燃料消費及び排気ガスの増		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	公用車の騒音に対する苦情	職員への安全運転・運転マナー教育の徹底		
令和元年度	公用車の騒音に対する苦情	職員への安全運転・運転マナー教育の徹底		
令和2年度	公用車の騒音に対する苦情	職員への安全運転・運転マナー教育の徹底		
具体的活動の内容				
令和元年度	本庁舎管理の車両について、車検・定期点検、修理等を行い、適正な車両管理を図りました。また、次世代自動車の導入も推進しました。			
平成30年度	本庁舎管理の車両について、車検・定期点検、修理等を行い、適正な車両管理を図りました。また、次世代自動車の導入も推進しました。			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
前年度に引き続き、適正な車両管理を行いました。 今後は市が使用する自動車の必要台数について削減が可能か研究していきたい。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	令和元年度に更新した車両6台のうち、4台が次世代自動車であり、目標である庁内の次世代自動車の導入率20%以上を維持しました。	
	内部環境評価	3	担当部課評価の内容を支持します。今後も次世代自動車の導入を推進し、地球環境の維持・向上に努めながら適正な車両管理等を実施されるよう期待します。	

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	コミュニティバスの運行		事業コード	40
部	まちづくり部	課	都市計画課	
計画体系	I 地球環境			
	i 地球温暖化の防止			
	2 自動車対策			
目的目標	コミュニティバスの利用を促進することを通して、公共交通の利用を促すことにより、マイカーの使用抑制につなげ、温室効果ガスの削減に努めます。			
目標指標	目標値	実績値		
コミュニティバスの日平均利用者数	710人/日	693人/日		
イベント等におけるコミュニティバスのPR	2回	2回		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	マイカー利用の抑制による温室効果ガスの削減	バス運行による排気ガスの発生		
令和元年度	マイカー利用の抑制による温室効果ガスの削減	バス運行による排気ガスの発生		
令和2年度	マイカー利用の抑制による温室効果ガスの削減	バス運行による排気ガスの発生		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	バス停の新設やルート見直し等の要望	利便性が高く効率的な運行ルート等の検討		
令和元年度	バス停の新設やルート見直し等の要望	利便性が高く効率的な運行ルート等の検討		
令和2年度	バス停の新設やルート見直し等の要望	利便性が高く効率的な運行ルート等の検討		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>温室効果ガスの削減を目標に、コミュニティバスの利用促進につながる情報発信等に努めました。</p> <p>&lt;実績概要&gt; ・ホームページ等情報発信回数 … 12回          ・運行距離、利用者数 約14,700km、253,725人          国分ルート：約4,700km、86,197人          上今泉ルート：約5,300km、95,116人          大谷・杉久保ルート：約4,700km、72,410人</p>			
平成30年度	<p>温室効果ガスの削減を目標に、コミュニティバスの利用促進につながる情報発信等に努めました。</p> <p>&lt;実績概要&gt; ・ホームページ等情報発信回数 … 12回          ・運行距離、利用者数 約14,700km、257,237人          国分ルート：約4,700km、88,977人          上今泉ルート：約5,300km、97,714人          大谷・杉久保ルート：約4,700km、70,547人</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>(変更点) 大谷・杉久保ルートの一部区間において施設改修に伴う停留所の移設を行い、経路改正を行いました。また、経年劣化に伴う車両更新を行いました。</p> <p>(課題等) 海老名市コミュニティバスガイドラインで定める運行基準に基づき、公費負担率50%以下を維持するため、更なる利用促進に向けた取組みを実施してまいります。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	<p>本事務事業については、ホームページやコミバス車両にコスト表示等を行い、利用促進の取組を行ってまいりました。</p> <p>今後も、更なる利用促進に向けた施策を実施してまいります。</p>	
	内部環境評価	3	<p>担当部環境評価を支持します。</p> <p>引き続き、情報発信に努め利用を促進することを期待します。</p>	



# 外部環境評価 事前評価シート

環境基本計画の体系				
I 地球環境	i 地球温暖化の防止	3 緑化推進		
項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
42	住宅公園課	都市公園等の整備	3	3
評価の点数	外部評価の結果		評価者	
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた		後藤委員	
判断理由及び評価内容				
<p>予算が厳しい中、公園施設における長寿命化の改修工事を目標1に対して2件実施を評価したい。</p> <p>ただし、令和2年度においては、従来と同じ環境影響（有害、有益とも）であるが、現在、コロナ禍において新たな環境影響は出ていませんか？緑化推進の中で、変化点があれば反映願います。</p>				

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	都市公園等の整備		事業コード	42
部	まちづくり部	課	住宅公園課	
計画体系	I 地球環境			
	i 地球温暖化の防止			
	3 緑化推進			
目的目標	公園整備及び適切な維持管理により、人と自然が共生する都市形成や、無秩序な市街化の防止を推進するとともにヒートアイランドの緩和や温室効果ガスの吸収を図ります。			
目標指標		目標値	実績値	
公園施設改修工事件数		1 件	2 件	
-		-	-	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	森林資源の保護、地球温暖化の防止	公園電気使用量の増加		
令和元年度	森林資源の保護、地球温暖化の防止	公園電気使用量の増加		
令和2年度	森林資源の保護、地球温暖化の防止	公園電気使用量の増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	公園内樹木等に係る苦情	迅速な現場対応		
令和元年度	公園内樹木等に係る苦情	迅速な現場対応		
令和2年度	公園内樹木等に係る苦情	迅速な現場対応		
具体的活動の内容				
令和元年度	委託等により公園の維持管理を実施します。公園の巡回による樹木・設備・遊具点検（シルバー人材など）。専門業者による園内樹木の点検・剪定や消毒。管理委託している自治会等の通報・報告により、緊急度に応じた委託・工事を実施しました。			
平成30年度	委託等により公園の維持管理を実施します。公園の巡回による樹木・設備・遊具点検（シルバー人材など）。専門業者による園内樹木の点検・剪定や消毒。管理委託している自治会等の通報・報告により、緊急度に応じた委託・工事を実施しました。			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
市民からの要望に植栽の伐採依頼が多々ある。植栽の伐採については、市民からの要望と森林資源の確保、二つの視点から総合的に判断する必要があるが、その見極めが困難である。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	公園施設の長寿命化改修工事を2件行った。また実績値としては計上していないが、日々の点検の中で不備があるもの等に対しても改修工事を行っており、市民の公園施設での交流に寄与することができたと考えるため。	
	内部環境評価	3	担当部環境評価の内容を支持します。 引き続き、公園施設の整備や維持管理を適切に行うことで、森林資源の保護や地球温暖化の防止につながることを期待します。	

# 外部環境評価 事前評価シート

環境基本計画の体系				
I 地球環境		i 地球温暖化の防止		4 廃棄物対策
項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
30	環境課	一般廃棄物の計画的な処理の実施	3	3
35	環境課	生ごみ処理対策の推進	3	4
評価の点数	外部評価の結果			評価者
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた			伊藤委員
判断理由及び評価内容				
<p>一般廃棄物については3つの目標を上回る実績であった。特に説明会の実施回数は計画を大幅に上回っており、良かった。家庭系ごみの排出量はほぼ計画通りで、有料化実施前の説明会などの施策の効果だったと考えます。今後は事業系についても指標を定めて計画を推進してください。</p> <p>生ごみ処理機の購入実績が想定約4倍になったが、補正予算でニーズには対応できたのは良かった。しかし、何故目標値と実績値にこんなにギャップが生じたのかについて正しい解析をしないと、目標の設定が適切ではなかったこととなります。次回以降の計画に正しく反映できない恐れがあります。</p>				

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	一般廃棄物の計画的な処理の実施		事業コード	30
部	経済環境部	課	環境課	
計画体系	I 地球環境			
	i 地球温暖化の防止			
	4 廃棄物対策			
目的目標	<p>一般廃棄物処理基本計画で定めている各目標値の達成に向けて、廃棄物の減量化、資源化の推進を図ります。</p> <p>また、大和市・海老名市・座間市・綾瀬市のごみ処理広域化実施計画及び循環型社会形成推進地域計画に基づき、適正な運用を図ります。</p>			
目標指標	目標値	実績値		
リサイクル率	34.70%	34.70%		
家庭系ごみ排出量(一人一日あたり)	400g	406g		
市民向けごみ減量化説明会の実施	86回	99回		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	廃棄物の減量化及び効率的処理	—		
令和元年度	廃棄物の減量化及び効率的処理	—		
令和2年度	廃棄物の減量化及び効率的処理	—		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	計画策定のため、構成市等との調整	協議会における研究・検討		
令和元年度	計画策定のため、構成市等との調整	協議会における研究・検討		
令和2年度	計画策定のため、構成市等との調整	協議会における研究・検討		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>① 一般廃棄物処理基本計画に基づき、計画的な処理を実施した。</p> <p>② ごみ減量化策について、家庭系、事業系の基本方針に基づき、それぞれ活動した。家庭系については、9月30日より有料化・戸別収集開始をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭系：制度説明会の実施(33回)</li> <li>・事業系：多量排出事業所への訪問・指導(82社)</li> </ul> <p>③ 出前講座 えびなっ子スクール、セザールグラン(6名)、今泉小4年生(111名)、杉本小、手話サークル(64名)、地区社協(29名)など</p>			
平成30年度	<p>① 環境審議会家庭系ごみ専門部会より答申をいただきました。(6月)</p> <p>② 海老名市家庭系ごみ基本方針(案)を策定、基本方針(案)内容についてパブコメを実施するとともに市長タウンミーティングや自治会・住民へ説明会を行いました。(6月)</p> <p>③ 海老名市家庭系ごみ基本方針を策定(9月)</p> <p>④ 条例改正案上程(10月)</p> <p>⑤ 市民集中説明会(10月)</p> <p>⑥ 条例改正議決(11月)</p> <p>⑦ 出前講座(計372名)福祉施設(14名)、セザールグラン海老名(16名)、柏ヶ谷小美化委員会(16名)、柏ヶ谷小(34名)、杉本小(94名)、東柏ヶ谷小(80名)、事業者講習会(42名)</p> <p>⑧ えびなっ子スクール 有鹿小、杉久保小(76名)</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>家庭系については、一部有料化に伴う手数料を特定財源とし、手数料の使途の見える化を図りました。</p> <p>事業系については、これまで収集運搬事業者の協力のもと、訪問指導を行ってききましたが、市単独にて実施することで、排出事業者からの意見を直接聴取しました。</p>				

	評価区分	評価	判断理由及び内容
環境評価	担当部課 環境評価	3	<p>家庭系については、制度導入後間もないため、まずは安定的な運営に努めます。</p> <p>事業系については、訪問指導の結果を踏まえ、収集運搬業者と連携しながら、減量化への取り組みを強化します。</p>
	内部 環境評価	3	<p>目標値をおおむね達成することができましたので、担当部課環境評価の内容を支持します。</p> <p>家庭系ごみの有料化・戸別収集および事業所への訪問指導により、減量化のさらなる進展を期待します。</p>

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	生ごみ処理対策の推進		事業コード	35									
部	経済環境部	課	環境課										
計画体系	I 地球環境												
	i 地球温暖化の防止												
	4 廃棄物対策												
目的目標	一般廃棄物処理基本計画に定める一人一日当たりの焼却量の目標年次における目標値（平成39年度 450g/日）を達成するため、家庭用生ごみ処理機の普及促進に努めます。												
目標指標	目標値	実績値											
生ごみ処理機購入補助	210基	845基											
家庭系ごみ排出量(一人一日あたり)	400g	406g											
	有益影響	有害影響											
平成30年度	廃棄物の減量化	悪臭、電気使用による二酸化炭素の増加											
令和元年度	廃棄物の減量化	悪臭、電気使用による二酸化炭素の増加											
令和2年度	廃棄物の減量化	悪臭、電気使用による二酸化炭素の増加											
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応											
平成30年度	生ごみ処理機使用による悪臭等トラブル	生ごみ処理機使用方法等の伝達											
令和元年度	生ごみ処理機使用による悪臭等トラブル	生ごみ処理機使用方法等の伝達											
令和2年度	生ごみ処理機使用による悪臭等トラブル	生ごみ処理機使用方法等の伝達											
具体的活動の内容													
令和元年度	<p>① 一般廃棄物処理基本計画に基づき、計画的な処理を実施した。</p> <p>② ごみ減量化策について、家庭系、事業系の基本方針に基づき、それぞれ活動した。家庭系については、9月30日より有料化・戸別収集開始をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭系：制度説明会の実施（33回）</li> <li>・事業系：多量排出事業所への訪問・指導（82社）</li> </ul> <p>③ 出前講座 えびなっ子スクール、セザールグラン（6名）、今泉小4年生（111名）、杉本小、手話サークル（64名）、地区社協（29名）など</p>												
平成30年度	<p>① 生ごみ処理機補助件数</p> <table border="0"> <tr> <td>電動式</td> <td>123基</td> <td>4,781,400円</td> </tr> <tr> <td>非電動式</td> <td>58基</td> <td>364,300円</td> </tr> <tr> <td>見込まれる生ごみの削減量</td> <td colspan="2">年間21.5 t</td> </tr> </table> <p>② 大型生ごみ処理機の継続使用</p> <p>市庁舎、中新田保育園（30kg/日機）          柏ヶ谷保育園、上河内保育園（20kg/日機）          見込まれる生ごみの削減量 年間6.9 t</p> <p>③ 生ごみ処理機周知回数</p> <p>イベント出展12回常設展示機9基          自治会回覧1回、店頭周知2回</p> <p>④ 生ごみ処理機使用状況アンケート 1回</p>				電動式	123基	4,781,400円	非電動式	58基	364,300円	見込まれる生ごみの削減量	年間21.5 t	
電動式	123基	4,781,400円											
非電動式	58基	364,300円											
見込まれる生ごみの削減量	年間21.5 t												
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点													
家庭系ごみ一部有料化・戸別収集実施への制度移行に伴い、生ごみ処理機の需要が高まり、補助金を補正予算で計上し、市民のニーズに対応しました。													
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容										
	担当部課環境評価	3	最も身近な生ごみの更なる減量化を図るため、市民や事業者に対する指導、啓発を継続します。										
	内部環境評価	4	生ごみ処理機の購入補助が、目標値を大きく上回ったことを評価します。今後も更なる普及促進を進めていくことを期待します。										

# 外部環境評価 事前評価シート

環境基本計画の体系				
I 地球環境	i 地球温暖化の防止	5 その他		
項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
69	教育支援課	学校環境活動の推進	3	3
評価の点数	外部評価の結果		評価者	
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた		後藤委員	
判断理由及び評価内容				
<p>目標通り、19校に対し環境教育、省エネ・リサイクル活動に取り組んだことを評価します。                      令和2年度は、上記に加えSDGsの考え方と今、教育で教えていることがどのように関連するかなど新たな視点での教育展開を期待します。また、昨今の気候変動（ゲリラ豪雨、豪雪など）と環境破壊との関連をより身近に感じられる工夫も加えることにより更なる効果が期待できます。</p>				

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	学校環境活動の推進		事業コード	69
部	教育部	課	教育支援課	
計画体系	I 地球環境			
	i 地球温暖化の防止			
	5 その他			
目的目標	市内全校にて環境教育に加え、学校の状況に応じて、省エネ化等の実施に努めます。			
目標指標		目標値	実績値	
市内小中学校の環境学習		19校	19校	
市内小中学校にて環境保全活動		19校	19校	
市内小中学校にて省エネ・リサイクル活動		19校	19校	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	児童生徒が自然や環境に対する理解を深め、環境保護に対する意識向上につながる	—		
令和元年度	児童生徒が自然や環境に対する理解を深め、環境保護に対する意識向上につながる	—		
令和2年度	児童生徒が自然や環境に対する理解を深め、環境保護に対する意識向上につながる	—		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	—	—		
令和元年度	—	—		
令和2年度	—	—		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>(1) 市内小中学校にて環境学習に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科資料集「わたしたちの海老名」を各小中学校で利活用</li> </ul> <p>(2) 市内小中学校にて環境保全活動に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元クリーンキャンペーンへの参加</li> <li>・緑化ポスター等環境啓発関係の参加</li> </ul> <p>(3) 市内小中学校にて省エネ・リサイクル活動に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコキャップ収集</li> </ul>			
平成30年度	<p>(1) 市内小中学校にて環境学習に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科資料集「わたしたちの海老名」を各小中学校で利活用</li> </ul> <p>(2) 市内小中学校にて環境保全活動に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元クリーンキャンペーンへの参加</li> <li>・緑化ポスター等環境啓発関係の参加</li> </ul> <p>(3) 市内小中学校にて省エネ・リサイクル活動に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコキャップ収集</li> </ul>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
今後も更なる環境啓発活動の推進に取り組みます。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	環境保護に対する意識向上につながる環境活動を行い、児童生徒が自然や環境に対する理解を深めました。	
	内部環境評価	3	担当部課環境評価の内容を支持します。児童生徒に環境保護に対する意識向上につながる環境活動を指導していくことは、今後、より重要性を増していくことと思います。現状の取組状況に満足することなく、各小中学校の環境活動内容を挙げて評価する等の改善を望みます。	



# 外部環境評価 事前評価シート

## 環境基本計画の体系

Ⅱ 地域環境	i 身近な生活環境を守ろう	1 河川等の水質保全
--------	---------------	------------

項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
53	下水道課	公共下水道の整備（污水）	3	3
55	下水道課	事業場排水水質調査	3	3

評価の点数	外部評価の結果	
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた	大橋委員

## 判断理由及び評価内容

1. 「公共下水道の整備（污水）」では「実際に掘削をしなければ判明しない事象」があり、即ち他の配管や電気・ガス線が阻害事項で事前の想定や工事見積に盛り込み切れないものを位置変更や設置設備の変更などの努力で実施した成果としてほぼ目標値を達成した結果は評価できます。

2. 「事業場排水水質検査」では、調査結果に基づき改善指導、技術支援で水質保全・向上に取り組み、具体的にグリストラップの清掃の回数を月1回から2回に増やすなど解り易い具体策を提示するなどの活動は評価できます。

3. 「河川等の水質保全」としては、上記1, 2から評価3とします。

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	公共下水道の整備（污水）		事業コード	53
部	まちづくり部	課	下水道課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ⅰ 身近な生活環境を守ろう			
	1 河川等の水質保全			
目的目標	市民の文化的生活の確保と公共用水域の水質保全を目的に、公共下水道（污水）の整備を行います。			
目標指標		目標値	実績値	
污水管渠整備延長（m）		2049m	2047m	
下水道普及率（％）		95.90%	95.90%	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	水質保全	廃棄物の増加、自動車使用による廃棄ガスの増加		
令和元年度	水質保全	廃棄物の増加、自動車使用による廃棄ガスの増加		
令和2年度	水質保全	廃棄物の増加、自動車使用による廃棄ガスの増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	工事に対する苦情	迅速な対応、工事内容の説明		
令和元年度	工事に対する苦情	迅速な対応、工事内容の説明		
令和2年度	工事に対する苦情	迅速な対応、工事内容の説明		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>次の事業を実施しました。</p> <p>① 市街化区域の公共下水道污水管渠の埋設工事</p> <p>② 市街化調整区域の公共下水道の普及促進を図るため、公共下水道污水管渠の埋設工事</p> <p>③ 公共下水道污水柵設置の申し出に基づく、設置工事</p> <p>④ 公共下水道污水管渠整備を実施するための詳細設計委託</p>			
平成30年度	<p>次の事業を実施しました。</p> <p>①市街化区域の公共下水道污水管渠の埋設工事</p> <p>②市街化調整区域の公共下水道の普及促進を図るため、公共下水道污水管渠の埋設工事</p> <p>③公共下水道污水柵設置の申し出に基づく、設置工事</p> <p>④公共下水道污水管渠整備を実施するための設計委託</p> <p>⑤下水道法に基づく事業計画の変更（アクションプラン整備区域追加）</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>今年度は、大谷南二丁目（37 分区）、国分北三丁目（33分区）、中河内（40分区）、門沢橋一丁目（41分区）、中新田（37分区）、中新田一丁目（37分区）、中新田五丁目（38分区）を中心に整備を行いました。また、詳細設計業務は本郷（42分区）、社家（40分区）の市街化調整区域について行い、次年度以降において、順次施工予定となっております。</p> <p>実際に掘削をしなければ判明しない事象があるため、対応をしながら進めてまいります。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	市街化区域については、今後も土地利用の状況を見ながら、未整備箇所を整備を進めてまいります。また、市街化調整区域については、海老名市污水処理整備計画（アクションプラン）に基づき整備してまいります。	
	内部環境評価	3	担当部課環境評価の内容を評価します。目標値に近い実績値となり、前年度より改善が見られました。今後も状況に応じた的確な事業実施を進めてください。	

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	事業場排水水質調査		事業コード	55
部	まちづくり部	課	下水道課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	i 身近な生活環境を守ろう			
	1 河川等の水質保全			
目的目標	公共下水道に悪質下水を流す恐れのある特定事業場等の水質を監視し、管渠の保全、終末処理場の負荷低減を図ります。			
目標指標		目標値	実績値	
立入調査等実施回数		111回	111回	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	水質保全	廃棄物の増加、自動車使用による廃棄ガスの増加		
令和元年度	水質保全	廃棄物の増加、自動車使用による廃棄ガスの増加		
令和2年度	水質保全	廃棄物の増加、自動車使用による廃棄ガスの増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	市内事業所に対する公害苦情	迅速な現場対応		
令和元年度	市内事業所に対する公害苦情	迅速な現場対応		
令和2年度	市内事業所に対する公害苦情	迅速な現場対応		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>次の内容を実施いたしました。</p> <p>① 特定事業内、貴金属等を使用している18事業所に対して、汚水の分析調査を実施しました。</p> <p>② 調査の結果、水質基準超過の事業所に改善指導及び技術的支援を行いました。(4件)</p>			
平成30年度	<p>次の内容を実施いたしました。</p> <p>① 特定事業場の内、重金属等を使用している18事業場に対して、汚水の分析調査を実施しました。</p> <p>② 調査の結果、水質基準超過の事業所に改善指導及び技術的支援を行いました。(7件)</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
特になし。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	<p>公共下水道に悪質下水を流す恐れのある特定事業場等の水質を監視し、管渠の保全、終末処理場の負荷軽減を図るため、定期的の対象事業場の排出汚水を採取・分析し、下水道法等の基準値を満たしているか調査しました。また、事業場への立ち入り調査により、排水処理施設が適正に維持管理されているか確認の必要があることから現状継続をいたします。</p>	
	内部環境評価	3	<p>担当部課環境評価の内容を支持します。</p> <p>各事業所の実態を把握し、適切な指導・支援をお願いします。</p> <p>今後も継続していくことにより、水質基準を超過する事業所がなくなることを期待します。</p>	

# 外部環境評価 事前評価シート

## 環境基本計画の体系

Ⅱ 地域環境	i 身近な生活環境を守ろう	2 騒音・振動防止対策		
項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
3	企画財政課	厚木基地航空機騒音対策	3	3
26	環境課	大気汚染・騒音対策、排水対策（騒音・振動）	3	4
評価の点数	外部評価の結果		評価者	
4	計画を上回る環境配慮を実施できた		伊藤委員	
判断理由及び評価内容				
<p>3 厚木基地航空機の騒音対策については、空母艦載機の移駐が前年度に終わったことで、騒音が大幅に減少した要因の一つにこの要請活動の効果があったと考えます。航空機騒音については問題は一段落したと思われるので、新たなテーマを考えてください。</p> <p>26 騒音苦情への対応は、19件の苦情に対応してすべて収束することができたこと、騒音発生の可能性を事前に把握し、適切に対応できたことを評価します。</p>				

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	厚木基地航空機騒音対策		事業コード	3
部	財務部	課	企画財政課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	i 身近な生活環境を守ろう 2 騒音・振動防止対策			
目的目標	厚木基地航空機騒音の早期解消や軽減を行い、良好な都市環境の形成を目指します。			
目標指標		目標値	実績値	
要請活動		3	3	
時間帯補正等価騒音レベル		57dB	51.2dB	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	航空機騒音の軽減	—		
令和元年度	航空機騒音の軽減	—		
令和2年度	航空機騒音の軽減	—		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	航空機騒音に関する苦情・意見	国や米軍に対する要請活動、騒音測定・収集した結果と苦情件数の報告		
令和元年度	航空機騒音に関する苦情・意見	国や米軍に対する要請活動、騒音測定・収集した結果と苦情件数の報告		
令和2年度	航空機騒音に関する苦情・意見	国や米軍に対する要請活動、騒音測定・収集した結果と苦情件数の報告		
具体的活動の内容				
令和元年度	① 要請活動：神奈川県基地関係県市連絡協議会、厚木基地騒音対策協議会等による国等への要請活動を実施した。 ② 騒音測定・収集：毎月市内5箇所の騒音測定結果を集計し、県基地対策課から防衛省及び外務省に報告した。			
平成30年度	① 要請活動：神奈川県基地関係県市連絡協議会、厚木基地騒音対策協議会等による国等への要請活動を実施した。 ② 騒音測定・収集：毎月市内5箇所の騒音測定結果を集計し、県基地対策課から防衛省及び外務省に報告した。			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
本市において、もっとも深刻な基地問題は、航空機騒音問題です。空母艦載機の騒音は、長年にわたり基地周辺住民の生活に大きな影響を及ぼしています。長年にわたり基地周辺住民が待ち望んできた空母艦載機の移駐が平成30年3月に完了したことにより、各測定点の騒音測定回数は減少傾向にあります。今後の運用や移駐後の騒音についても、引き続き注視していく必要があります。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	厚木基地に起因する航空機の騒音は、市民生活に大きな影響を及ぼしています。航空機騒音の早期解消や軽減は、国の責任において適切な措置を講じるべき問題と認識しています。このことから、県及び厚木基地周辺市とともに、引き続き国に対して要請してまいります。航空機騒音測定装置については、機器の更新や測定データ等を総合的に判断し、設置箇所の見直しを行うとともに、要請にあたっては厚木基地を取り巻く状況や市民から寄せられる声の把握が必要不可欠であることから、継続して情報収集等に取り組みます。	
	内部環境評価	3	担当部課評価を支持します。 航空機騒音の解消・軽減について、国に対する要請活動の取組みや情報収集等、周辺市等とともに引き続き積極的に行っていただくようお願いいたします。	

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	大気汚染・騒音対策、排水対策（騒音・振動関係）		事業コード	26
部	経済環境部	課	環境課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ⅰ 身近な生活環境を守ろう ⅱ 騒音・振動防止対策			
目的目標	市民より寄せられる騒音振動苦情に誠実かつ迅速に対応します。 また、開発行為を行う事業者に、工事施工時に周辺住民への周知を欠かさず行うよう要望し、住み続けたいと思える住環境を目指します。			
目標指標	目標値		実績値	
騒音苦情対応	収束率 90%		収束率 100%	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	生活環境の維持・確保	廃棄物の増加、自動車使用による排気ガスの増加		
令和元年度	生活環境の維持・確保	廃棄物の増加、自動車使用による排気ガスの増加		
令和2年度	生活環境の維持・確保	廃棄物の増加、自動車使用による排気ガスの増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	市内事業所等に対する公害苦情	迅速な現場対応		
令和元年度	市内事業所等に対する公害苦情	迅速な現場対応		
令和2年度	市内事業所等に対する公害苦情	迅速な現場対応		
具体的活動の内容				
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・騒音振動苦情相談に係る当該事業所等への立入調査・指導等を実施しました。</li> <li>・特定建設作業を行う施工者に対し、周辺住民への周知を必ず事前に行うよう、要望しました。</li> <li>・令和元年度は19件の騒音振動苦情相談に対応しました。</li> <li>・開発事業者に対し、工事着工前に近隣住民に事前周知を行うよう、指導をしました。</li> </ul>			
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・騒音振動苦情相談に係る当該事業所等への立入調査・指導等を実施しました。</li> <li>・特定建設作業を行う施工者に対し、周辺住民への周知を必ず事前に行うよう、要望をしました。</li> <li>・平成30年度は15件の騒音振動苦情相談に対応しました。</li> </ul>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>令和元年度については、大型の事業所の建設工事があり、工事による騒音や振動の影響を受けた、工事現場周辺住人からの苦情が市へ多く寄せられた。</p> <p>上記の工事はいずれも開発行為で、事前周知はされていたものであったことから、施主に対し、開発協議の中で、騒音規制法に係る規制基準値及び海老名市環境保全条例に基づく建設時間帯の順守に係る要望についても行っていくことの必要性を感じた。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	<p>市へ寄せられた苦情について、原因調査を行ったうえで、原因者に適切な指導を行いました。</p> <p>また、市が事前に把握できた大規模な解体工事及び特定建設作業並びに開発行為については、当該施主若しくは現場代理人に対し、周辺住民への周知を必ず事前に行ったうえで、周囲の生活環境に配慮した作業をするよう、指導をするなど、公害の発生を一定程度抑制できたため、概ね目標を達成できたものと考えます。</p>	
	内部環境評価	4	<p>担当部課評価を修正します。</p> <p>寄せられた苦情について、全て収束させているとともに、苦情が予測される場合の事前対応も図られていました。</p> <p>今後は、課題点として挙げられている開発協議の段階での対応についても図っていくことで、よりよい施策とされることを期待します。</p>	

# 外部環境評価 事前評価シート

## 環境基本計画の体系

Ⅱ 地域環境	i 身近な生活環境を守ろう	3 水循環型社会の構築
--------	---------------	-------------

項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
51	下水道課	合併処理浄化槽整備の助成	3	2
52	下水道課	地下浸透による地下水涵養の促進	3	3

評価の点数	外部評価の結果	評価者
2	一部計画通りの環境配慮を実施できなかった	伊藤委員

## 判断理由及び評価内容

合併処理浄化槽の整備の助成に関し、2つの目標指標はいずれも目標に達していない。合併処理浄化槽の設置推進が本当に必要なのかなど、原因を調査し、対応を希望します。

雨水の地下浸透については、結果としては良かった。ただし、「申請のあった開発行為等にすべて指導した」、とあるが、「指導を行いすべて施工してもらった」という意味が通じない。

合併処理浄化槽の目標未達の原因についての考察がなされていないことを重視して評価を2とします。

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	合併処理浄化槽整備の助成		事業コード	51
部	まちづくり部	課	下水道課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ⅰ 身近な生活環境を守ろう			
	Ⅲ 水循環型社会の構築			
目的目標	市街化調整区域など公共下水道が相当期間整備が見込まれない地区について、し尿及び生活上の雑排水による公共用水域の水質汚濁及び生活環境の悪化を防止するために、合併処理浄化槽の設置を促進します。			
目標指標	目標値		実績値	
広報啓発活動	3回		1回	
合併処理浄化槽設置数	3台		1台	
	有益影響		有害影響	
平成30年度	水質保全、生活環境の改善		廃棄物の増加、資源の枯渇	
令和元年度	水質保全、生活環境の改善		廃棄物の増加、資源の枯渇	
令和2年度	水質保全、生活環境の改善		廃棄物の増加、資源の枯渇	
	想定されるコミュニケーション		コミュニケーションへの対応	
平成30年度	助成制度や維持管理方法の問い合わせ		適切な説明、保健所への案内	
令和元年度	助成制度や維持管理方法の問い合わせ		適切な説明、保健所への案内	
令和2年度	助成制度や維持管理方法の問い合わせ		適切な説明、保健所への案内	
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>次の事業を実施しました。</p> <p>① 合併処理浄化槽設置に伴う助成 設置基数：0基（申請無し）</p> <p>② 助成制度の啓発 窓口でのチラシ配布、ホームページへの内容掲載</p>			
平成30年度	<p>次の事業を実施しました。</p> <p>① 合併処理浄化槽設置に伴う助成 設置基数：1基（7人槽）</p> <p>② 助成制度の啓発</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>現在、アクションプランに基づき、市街化調整区域内の下水道整備を実施しており、助成対象区域が減少傾向となることです。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	市街化調整区域など公共下水道が相当期間整備が見込まれない地区について、し尿及び生活上の雑排水による公共用水域の水質汚濁及び生活環境の悪化を防止するため、合併処理浄化槽の設置を促進する必要があることから引き続き当該事業を実施していきます。	
内部環境評価	2	<p>担当部課環境評価の内容を修正します。</p> <p>広報啓発活動、合併処理浄化槽設置数ともに目標達成に至っておりません。</p> <p>助成対象区域が減少傾向であるという状況は理解できますが、合併処理浄化槽の設置促進という目標の達成に向け、積極的な広報啓発活動の実施を期待します。</p>		



環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	地下浸透による地下水涵養の促進		事業コード	52
部	まちづくり部	課	下水道課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ⅰ 身近な生活環境を守ろう			
	Ⅲ 水循環型社会の構築			
目的目標	雨水の地下浸透を進め、地下水の保全を図ります。			
目標指標	目標値	実績値		
地下浸透施設設置率（設置件数/指導件数）	100%	100%		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	地下水の保全	資源の枯渇		
令和元年度	地下水の保全	資源の枯渇		
令和2年度	地下水の保全	資源の枯渇		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	まちづくり条例等の問い合わせ	適切な説明		
令和元年度	まちづくり条例等の問い合わせ	適切な説明		
令和2年度	まちづくり条例等の問い合わせ	適切な説明		
具体的活動の内容				
令和元年度	開発行為等があった53件について、地下浸透施設の設置を指導しました。			
平成30年度	開発行為等があった59件について、地下浸透施設の設置を指導しました。			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
特になし。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	申請のあった開発行為等すべてに対し指導を行いました。	
	内部環境評価	3	担当部課環境評価の内容を評価します。 今後も指導を徹底し、地下水の保全に努めてください。	

# 外部環境評価 事前評価シート

## 環境基本計画の体系

Ⅱ 地域環境	i 身近な生活環境を守ろう	4 化学物質等対策
--------	---------------	-----------

項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
27	環境課	大気汚染・騒音対策、排水対策（化学物質）	3	3

評価の点数	外部評価の結果	評価者
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた	後藤委員

## 判断理由及び評価内容

ダイオキシン類の分析、水質関連調査、事業者へ講習会の実施など3項目にわたり、当初の目標値の達成したことを評価します。

過去2年間にわたり、25件を超える大気水質の相談、苦情が寄せられており適切に対応しています。この相談、苦情の内容分析をもとに対策が打てるものがあれば、令和2年の目標に入れていただけると、さらに活動の幅が広がります。

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	大気汚染・騒音対策、排水対策（化学物質関係）		事業コード	27
部	経済環境部	課	環境課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ⅰ 身近な生活環境を守ろう			
	4 化学物質対策			
目的目標	市内公共用水域等の水質及び市内の大気中におけるダイオキシンの濃度について、環境基本法等で定められた環境基準の維持・確保に努めることで、人と自然が調和した生活環境づくりを図ります。			
目標指標		目標値	実績値	
	ダイオキシン類分析調査	6か所	6か所	
	水質関係調査（河川、地下水、工場排水）	19か所	19か所	
	事業者講習会の実施	1回	1回	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	生活環境の維持・確保	廃棄物の増加、自動車使用による排気ガスの増加		
令和元年度	生活環境の維持・確保	廃棄物の増加、自動車使用による排気ガスの増加		
令和2年度	生活環境の維持・確保	廃棄物の増加、自動車使用による排気ガスの増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	市内事業所等に対する公害苦情、指定事業所に対する環境啓発	迅速な現場対応、事業者講習会の実施		
令和元年度	市内事業所等に対する公害苦情、指定事業所に対する環境啓発	迅速な現場対応、事業者講習会の実施		
令和2年度	市内事業所等に対する公害苦情、指定事業所に対する環境啓発	迅速な現場対応、事業者講習会の実施		
具体的活動の内容				
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共用水域及び事業所合わせて19箇所にて採水を行いました。</li> <li>・大気中のダイオキシン類分析調査を市内公園及びコミュニティセンター6箇所で行いました。</li> <li>・大気水質関連の相談苦情28件に対し、適切に対応しました。</li> <li>・令和2年2月10日に市内8事業所（飲食店組合）を対象に事業系一般廃棄物の適正処理に関する講習会を開催しました（資源循環係との共催）。</li> </ul>			
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共用水域及び事業所合わせて19箇所にて採水を行いました。</li> <li>・大気中のダイオキシン類分析調査を市内公園及びコミュニティセンター6箇所で行いました。</li> <li>・大気水質関連の相談苦情26件に対し、適切に対応しました。</li> <li>・平成31年2月22日に市内33事業所を対象に事業系一般廃棄物の適正処理に関する講習会を開催しました（資源循環係との共催）。</li> </ul>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>市内コミュニティセンターにおける大気中のダイオキシン調査委託について、毎年度、ダイオキシン測定器の稼働に必要な電源をコミュニティセンターに借用しているが、今年度は地域づくり課との調整不足により、電源コードの延長ルートに誤りがあり、地域づくり課より指摘があったため、次年度は地域づくり課との調整を密にし、委託業者に適切に申し送りをしてまいります。</p> <p>また、事業者講習会については、飲食店組合にお声がけをしたが、飲食店は接客対応や仕込みの関係により、出席率が昨年度と比較し、低下いたしました。このため、次年度については、日中も出席が可能な事業所を選定してまいります。</p>				

	評価区分	評価	判断理由及び内容
環境評価	担当部課 環境評価	3	<p>契約業務を適切に執行し、目標の地点数における調査を実施することができました。</p> <p>また、調査結果についても、全ての調査地点において環境基準値を達成していたため、概ね目標は達成できたものと考えます。</p>
	内部 環境評価	3	<p>環境に関する各種調査が適切に行われており、計画通り目標を達成できているため、担当部課の環境評価を支持します。</p>

# 外部環境評価 事前評価シート

環境基本計画の体系				
Ⅱ 地域環境	i 身近な生活環境を守ろう	5 大気汚染・悪臭防止対策		
項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
29	環境課	大気汚染・騒音対策、排水対策	3	3
評価の点数	外部評価の結果		評価者	
4	計画を上回る環境配慮を実施できた		大橋委員	
判断理由及び評価内容				
<p>1. 「大気汚染、悪臭防止対策」で「野焼き苦情対応」が収束率100%の実績は高く評価できます。小さく分けて燃やしてもらった「分煙」や洗濯物を干す時間への配慮、子どもが遊ぶ時間の配慮などの「焼却時間の検討」のお願いの対策は住民の生活に配慮したきめ細かい環境活動として誠に大です。この精神の発展を期待します。評価4とします。</p>				

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	大気汚染・騒音対策、排水対策（大気汚染・悪臭関係）		事業コード	29
部	経済環境部	課	環境課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	i 身近な生活環境を守ろう 5 大気汚染・悪臭防止対策			
目的目標	<p>環境基本法で定められた、大気汚染や騒音に係る環境基準等の維持・確保に努めます。</p> <p>特に、大気汚染に関する相談に関しては屋外焼却が割合を占めているため、対応の際に啓発チラシを配布し、分煙や焼却時間に配慮いただくことで同一案件における苦情をなくし、「苦情対応の収束率90%」を目指してまいります。</p>			
目標指標	目標値	実績値		
窒素酸化物簡易測定	21か所	21か所		
野焼き苦情対応	収束率 90%	収束率 100%		
野焼きルール周知啓発	対応件数分	対応件数分		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	生活環境の維持・確保	廃棄物の増加、自動車使用による排気ガスの増加		
令和元年度	生活環境の維持・確保	廃棄物の増加、自動車使用による排気ガスの増加		
令和2年度	生活環境の維持・確保	廃棄物の増加、自動車使用による排気ガスの増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	市内事業所等に対する公害苦情	迅速な現場対応		
令和元年度	市内事業所等に対する公害苦情	迅速な現場対応		
令和2年度	市内事業所等に対する公害苦情	迅速な現場対応		
具体的活動の内容				
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内21箇所での窒素酸化物簡易測定を行いました。</li> <li>22件寄せられた屋外燃焼行為等による悪臭等の苦情・相談に適切に対応しました。また、寄せられた屋外焼却に係る原因者に対し、神奈川県生活環境保全条例の屋外焼却に係る禁止事項について説明を行いました。</li> </ul>			
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内21箇所での窒素酸化物簡易測定を行いました。</li> <li>12件寄せられた屋外燃焼行為等による悪臭等の苦情・相談に適切に対応しました。また、寄せられた屋外焼却に係る苦情相談の当事者に対し、神奈川県生活環境保全条例の屋外焼却に係る禁止事項について説明を行いました。</li> </ul>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>市内21箇所に設置している窒素酸化物測定用サンプラーについて、何らかの原因により、固定位置から落下し、測定結果の集計に影響が出たことが複数回あった。</p> <p>このため、対策として、市内測定箇所の固定位置を正確に把握し、また、強風や豪雨などの自然要因により落下しないよう、強くサンプラーを固定する。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課 環境評価	3	<p>市内21箇所で行った窒素酸化物簡易測定について、全ての調査地点で基準値を達成出来ました。</p> <p>また、屋外焼却を行っていた者に対しても、分煙や焼却時間の検討についてお願いをし、苦情の収束率向上に繋がったため、概ね目標を達成したものと考えます。</p>	
	内部 環境評価	3	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>窒素酸化物簡易測定については、目標どおりに行っているほか、苦情対応に適切に対応しているものと考えます。</p>	

# 外部環境評価 事前評価シート

## 環境基本計画の体系

Ⅱ 地域環境	i 身近な生活環境を守ろう	6 廃棄物対策
--------	---------------	---------

項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
31	環境課	まちの美化の推進	3	3
34	環境課	し尿収集体制の充実	3	3

評価の点数	外部評価の結果	評価者
4	計画を上回る環境配慮を実施できた	後藤委員

## 判断理由及び評価内容

環境目標の路上喫煙指導啓発、吸い殻、空き缶のポイ捨て啓発、海老名クリーン作成など地道な活動を丁寧に実施しており、目標値を大きく上回る実績を残しました。また、し尿処理においても滞ることなく目標値を達成しています。このような活動は継続性が大切です。ぜひ、継続的な活動を期待します。現在、コロナ禍において廃棄物の量や質も変化してきているようです。令和2年度においてその変化に対応できる目標設定ができるとさらなる効果が期待できます。

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	まちの美化の推進		事業コード	31
部	経済環境部	課	環境課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ⅰ 身近な生活環境を守ろう			
	6 廃棄物対策			
目的目標	<p>市内の居住地域のうち、不特定多数の者が往来する公共的な場所（歩道など）の清掃活動を実施することにより、市内美化、不法投棄等の減少を図ります。</p> <p>また、5月31日から海老名駅周辺を路上喫煙禁止としたことにより、地区内の路上喫煙者減少を図ります。</p>			
目標指標		目標値	実績値	
路上喫煙指導啓発件数		200件	374件	
吸い殻、空き缶等のポイ捨て啓発件数		200件	539件	
えびなクリーン作戦等一斉清掃活動実施回数		1回	1回	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	市内美化及び不法投棄ごみの減少、路上喫煙者の指導	—		
令和元年度	市内美化及び不法投棄ごみの減少、路上喫煙者の指導	—		
令和2年度	市内美化及び不法投棄ごみの減少、路上喫煙者の指導	—		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	地域に応じた美化推進活動が必要となるため、地域代表等との調整	地域代表等との調整		
令和元年度	地域に応じた美化推進活動が必要となるため、地域代表等との調整	地域代表等との調整		
令和2年度	地域に応じた美化推進活動が必要となるため、地域代表等との調整	地域代表等との調整		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>① 海老名市まちの美化推進に関する条例を改正（現条例名：海老名市路上喫煙の防止及び美化推進に関する条例）し、路上喫煙禁止地区を定めるとともに、海老名駅東口喫煙所2か所を再整備しました。</p> <p>② えびなクリーン作戦 門沢橋小学校区（10月20日実施、20団体、270名参加、330kg回収）</p> <p>③ 美化推進重点地区 ポイ捨て啓発 539件、歩行喫煙指導 374件、合計 913件</p> <p>④ 不法投棄パトロール、啓発看板設置、ルール違反ごみ警告シール貼付等の実施</p> <p>⑤ きれいなまちづくり事業として、54登録団体への活動に対する奨励金を交付し、支援しました。</p>			
平成30年度	<p>① えびなクリーン作戦 杉久保小学校区</p> <p>② 美化推進重点地区 ポイ捨て啓発206件、歩行喫煙指導 238件、合計 444件</p> <p>③ 不法投棄パトロール、啓発看板設置、ルール違反ごみ警告シール貼付等の実施</p> <p>④ きれいなまちづくり事業として、54登録団体へ活動に対する奨励金を交付し支援しました。</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
海老名駅東口にある喫煙所のうち、交番前の喫煙所については加熱式たばこ専用としたが、紙巻きたばこの喫煙者が見受けられるため、その対応が必要です。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	まちの美化推進の向上を図るため、これまでの支援事業や啓発活動を継続的に実施していくとともに、禁煙条例の制定に向けた検討をしていく必要がある。	
	内部環境評価	3	担当部課環境評価の内容を支持します。 資源化センターが改修されたことにより、効率的に資源物の選別等の業務が行われることを期待します。	



環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	し尿収集体制の充実		事業コード	34
部	経済環境部	課	環境課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ⅰ 身近な生活環境を守ろう			
	6 廃棄物対策			
目的目標	収集業務の作業効率向上と環境衛生の保全を図ります。また、併せて収集車両を更新します。			
目標指標	目標値	実績値		
し尿処理件数	1,174件	1,202件		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	環境衛生の面から環境保全	収集車から排出されるCO <sub>2</sub> による大気汚染		
令和元年度	環境衛生の面から環境保全	収集車から排出されるCO <sub>2</sub> による大気汚染		
令和2年度	環境衛生の面から環境保全	収集車から排出されるCO <sub>2</sub> による大気汚染		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	汲取り時期の依頼	電話及び窓口対応の後、現場対応		
令和元年度	汲取り時期の依頼	電話及び窓口対応の後、現場対応		
令和2年度	汲取り時期の依頼	電話及び窓口対応の後、現場対応		
具体的活動の内容				
令和元年度	効率的な収集コースによる業務実施 ・現場所在地や1件あたりの汲み取り予定量に応じた予約受付を行い、移動時間と移動距離の短縮を図った。			
平成30年度	効率的な収集コースによる業務実施 ・1日あたりの取り扱い件数（工事現場などの仮設トイレ）を、現場の所在や1件ごとのくみ取り予定量に応じて5～10件と幅を持たせることで、安定した作業ができ、結果として、対応力の向上が図られました。  ・年末・年始時の繁忙期においては、効率のよい収集を実施するため、汲み取り依頼者等と予め作業日時等の調整を随時行いました。			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
・急な汲み取りの依頼が多いため、依頼主に対して余裕をもって依頼するよう呼びかけをおこなった。 ・特に大規模開発現場では、仮設トイレの設置数量が多く、汲み取り頻度も高いため、設置前の段階から依頼主と調整を図る必要がある。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	依頼主と綿密な調整を図るとともに、汲み取り担当員と十分な打合せを行い、作業効率のよい計画をもって事業を進めていきます。	
	内部環境評価	3	担当部課環境評価の内容を支持します。 急な汲み取り依頼に対するマニュアル等を作成する等の課題・問題点の具体的な対策を期待します。	

# 外部環境評価 事前評価シート

## 環境基本計画の体系

Ⅱ 地域環境	i 身近な生活環境を守ろう	7 道路環境整備
--------	---------------	----------

項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
47	道路整備課	道路の修繕	4	4
49	道路整備課	海老名駅周辺道路整備の推進	4	4

評価の点数	外部評価の結果	
4	計画を上回る環境配慮を実施できた	大橋委員

## 判断理由及び評価内容

- 「道路の修繕」では、日常的な市民からの連絡を受けた「市民要望」の小規模な補修を目標外で地道に対応する活動は「真の身近な生活環境を守る」と高く評価します。また、「市民要望」（エクセルファイルで管理）から修繕へのプロセスを「フロー図」に標準化した活動は「EMSを活用した模範例」です。
- 「海老名駅周辺道路の整備」は予算に余裕があったため計画を上回って事業を実施できたので目標値を上回ることができた。これは当然の結果と思われる。しかし、結果として道路拡幅で見通しが良くなったり自転車の追い越しによる減速が減るなどの効果が出ているのは評価できます。
- 「道路環境整備」は、特に1の活動から評価4とします。

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	道路の修繕		事業コード	47
部	まちづくり部	課	道路管理課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	i 身近な生活環境を守ろう			
	7 道路環境整備			
目的目標	道路の路面や排水等の道路施設について、改修工事等を行い交通安全の向上と住環境の保全を図ります。			
目標指標		目標値	実績値	
修繕路線数		14路線	37路線	
道路パトロール実施回数		84回	84回	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	周辺住環境の保全	建設廃棄物の増加、排気ガスの増加		
令和元年度	周辺住環境の保全	建設廃棄物の増加、排気ガスの増加		
令和2年度	周辺住環境の保全	建設廃棄物の増加、排気ガスの増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	事故対応、振動・騒音の苦情	迅速な現場対応		
令和元年度	事故対応、振動・騒音の苦情	迅速な現場対応		
令和2年度	事故対応、振動・騒音の苦情	迅速な現場対応		
具体的活動の内容				
令和元年度	当初予定していた12路線と市民要望や道路パトロールにより発覚した舗装や排水施設等の小規模な補修箇所25路線の修繕工事を実施しました。			
平成30年度	交通安全の向上と住環境の保全を目的として、以下の23路線の修繕工事をを実施しました。 (路線名) 市道1号線、市道1841号線、市道4号線、市道28号線、市道27号線、市道1034号線、市道2262号線、市道90号線、市道976号線、市道1021号線、市道1830号線、市道1947号線、市道2044号線、市道307号線、市道44号線、市道337号線、市道9号線、市道53号線、市道14号線、市道13号線、市道667号線、市道5号線、市道13号線			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>修繕計画に基づく市内の幹線道路及び市民や自治会からの要望について計画的な改修を実施しました。引き続き、5年毎に路面の状況を調査し、劣化状況と併せて緊急輸送路の指定や交通量等により優先順位を付けて適切な修繕を図る必要があります。また、交通量の少ない生活道路については、破損箇所の補修を行いながら修繕時期を検討してまいります。</p> <p>道路パトロールでは、交通に支障を与える障害物等の発見、処理を行い道路構造物の保全を図れ、緊急を要する異常を発見した場合の応急措置を行い、通行者の安全を確保することができました。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	4	改修計画及び住民要望を考慮して路線の選定を行い、適切な時期に改修工事を実施しました。工事実施の際は、自治会や沿線住民へのお知らせによりPRを行い、37路線の改修工事を達成することができました。	
	内部環境評価	4	担当部課環境評価の内容を支持します。 適切な改修時期により改修工事を実施し、自治会や沿線住民の要望に応え、周辺住環境の保全した効果を認識した上で、適切な対応を継続されることを期待します。 道路パトロールでの対応も評価します。	

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	海老名駅周辺道路の整備		事業コード	49
部	まちづくり部	課	道路整備課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	i 身近な生活環境を守ろう			
	7 道路環境整備			
目的目標	道路環境を整備することにより渋滞を解決し、排気ガス等による大気環境の汚染を抑制するため。			
目標指標		目標値	実績値	
海老名駅周辺道路の整備		627m	680m	
測量・設計による基礎資料の作成		7件	15件	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	渋滞解決、渋滞解決による排気ガスの抑制	工事車両使用による排気ガスの増加		
令和元年度	渋滞解決、渋滞解決による排気ガスの抑制	工事車両使用による排気ガスの増加		
令和2年度	渋滞解決、渋滞解決による排気ガスの抑制	工事車両使用による排気ガスの増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	事業に対する問い合わせ	事業説明会等の実施		
令和元年度	事業に対する問い合わせ	事業説明会等の実施		
令和2年度	事業に対する問い合わせ	事業説明会等の実施		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>渋滞解決及び渋滞解決による排気ガスの抑制等を促進するため、以下のとおり、道路整備の進捗を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)上郷河原口線道路新設工事 L=195m</li> <li>・市道307号線道路改良工事(繰越明許分) L=58m</li> <li>・市道307号線道路改良工事 L=97m</li> <li>・市道307号線道路改良工事(その2) L=136m</li> <li>・市道62号線道路改良工事 L=147m</li> <li>・市道62号線道路改良工事(その2) L=47m</li> </ul> <p style="text-align: right;">合計 整備延長 L=680m</p>			
平成30年度	<p>渋滞解決及び渋滞解決による排気ガスの抑制等を促進するため、以下のとおり、道路整備の進捗を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市道1753号線ほか1路線歩道整備工事 整備延長L=282m</li> <li>・市道307号線道路改良工事市道307号線道路改良工事 整備延長L=58m</li> <li>・(仮称)上郷河原口線道路新設工事 整備延長L=142m</li> <li>・市道62号線道路改良工事 整備延長L=147m</li> </ul> <p style="text-align: right;">合計 整備延長 L=629m</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>海老名駅周辺では、商業施設の開店により駅周辺が混雑し渋滞が発生しており問題視されています。また、今後も周辺土地利用が加速され、更なる人口の増加とそれに伴い交通量の増加が予測されます。このため周辺の道路整備を進め円滑な交通環境の創出、道路整備による自動車等の分散化により渋滞を緩和し、環境への負荷を低減をしていきます。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	4	<p>道路整備に伴う用地交渉、市民への説明会等、各補助金の活用等、早期完成に向け、鋭意努力した結果、予算内で最大限の道路整備を実施することができた。</p> <p>また、現状に留まることなく、効果的な道路ネットワークを構築し、渋滞解決及び渋滞解決による排気ガスの抑制を図っていきます。</p>	
	内部環境評価	4	<p>担当部課環境評価の内容を支持します。</p> <p>今後予想される交通量の増加や渋滞に対し、効果的な道路ネットワーク整備により排気ガスの抑制など環境への負荷の低減を期待します。</p>	

# 外部環境評価 事前評価シート

## 環境基本計画の体系

II 地域環境		i 身近な生活環境を守ろう		8 防災	
項番	担当課	事務事業名	環境評価		
			担当	内部	
1	危機管理課	危機管理体制の整備及び充実・強化	3	3	
2	危機管理課	防災対策の意識啓発	3	3	
評価の点数	外部評価の結果			評価者	
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた			後藤委員	
判断理由及び評価内容					
<p>危機管理対処計画に基づく訓練、研修の計画はほぼ達成されたことを評価します。</p> <p>令和元年の活動内容にあるように台風19号の災害対応においても、今までの訓練の成果が出ていると感じます。このような気候変動は、今後さらに大きくなっていくことが予想され、今までに経験したことのない災害に発展することも考えられます。リスク対応のかなめは、いかにリスクを想定できるかにあります。今までの経験知からさらに突っ込んだリスクの想定および、その訓練および研修の実施を期待します。</p>					

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	危機管理体制の整備及び充実・強化		事業コード	1
部	市長室	課	危機管理課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ⅰ 身近な生活環境を守ろう			
	8 防災			
目的目標	地球温暖化の進行により懸念される風水害の増加・規模拡大等に備え、市民等の生命、身体及び財産に及ぼす被害、損害、影響等を未然に防止し、及び最小限にとどめることを目的とし、危機管理体制の整備及び充実・強化を図ることを目的とします。			
目標指標		目標値	実績値	
	危機対処計画に基づく研修の実施	6回	6回	
	危機対処計画に基づく訓練の実施	59回	56回	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	危機管理体制の充実及び地球温暖化対応策の推進	—		
令和元年度	危機管理体制の充実及び地球温暖化対応策の推進	—		
令和2年度	危機管理体制の充実及び地球温暖化対応策の推進	—		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	市民等からの意見及び要望	意見要望の反映及び結果の市民への周知		
令和元年度	市民等からの意見及び要望	意見要望の反映及び結果の市民への周知		
令和2年度	市民等からの意見及び要望	意見要望の反映及び結果の市民への周知		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>昨年度、国民保護計画を変更し、今年度は危機管理部による国民保護関連の訓練を実施しました。</p> <p>また、台風第19号では過去最大の全庁的な災害対応となり、その後は全庁による検討報告会も実施し、来年度に検証も兼ねた訓練を実施予定です。</p>			
平成30年度	<p>大規模イベント等を控える中で、国民保護事態に備え、パブリックコメントを実施の上、国民保護計画を変更しました。</p> <p>また、海老名市の脆弱性等を分析の上、海老名市の国土強靱化の指針とすべき事項を整理した「海老名市国土強靱化地域計画」を策定しました。</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>災害対策本部訓練では庁舎一部損壊及び停電を想定し、起震車から照明等への電気供給によりエネルギーの自給を実施しました。これに加え、電気自動車の活用も考えています。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課 環境評価	3	実災害対応を通じて、職員の危機管理意識を向上できたと考えております。	
	内部 環境評価	3	<p>担当部課環境評価を支持します。</p> <p>目標値と実績値がほとんど達成できていると評価できます。引き続き、危機対処計画に基づく訓練の達成率100%を目指し、継続して取り組んでいきたい。</p>	

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	防災対策の意識啓発		事業コード	2
部	市長室	課	危機管理課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	i 身近な生活環境を守ろう			
	8 防災			
目的目標	地球温暖化の進行により懸念される風水害の増加・規模拡大等に備え、市民の日頃の防災対策への意識啓発を図り、災害発生時等の人的被害等を防止し、及び最小限にとどめることを目的とします。			
目標指標	目標値	実績値		
自治会での自主防災訓練の実施等による防災意識啓発活動	59回	44回		
地区防災計画の作成指導	2回	1回		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	迅速・円滑な避難の実施による地球温暖化適応策の推進	訓練計画の適否により、その訓練自体が無駄になるおそれがある		
令和元年度	迅速・円滑な避難の実施による地球温暖化適応策の推進	訓練計画の適否により、その訓練自体が無駄になるおそれがある		
令和2年度	迅速・円滑な避難の実施による地球温暖化適応策の推進	訓練計画の適否により、その訓練自体が無駄になるおそれがある		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	訓練及びそれに伴う事前打ち合わせ等における参加者からの意見要望	意見要望を踏まえた訓練目的及び要領の徹底		
令和元年度	訓練及びそれに伴う事前打ち合わせ等における参加者からの意見要望	意見要望を踏まえた訓練目的及び要領の徹底		
令和2年度	訓練及びそれに伴う事前打ち合わせ等における参加者からの意見要望	意見要望を踏まえた訓練目的及び要領の徹底		
具体的活動の内容				
令和元年度	これまでの地震災害に関する訓練、防災講話に加え、本年度は台風第19号を代表とした「風水害」があり、市としても過去最大の対応となったことから、「風水害」をテーマとした防災講話の依頼が自治会のほか企業等を含めて数多くありました。			
平成30年度	近年は、全国各地で風水害が増えていることから、「風水害」をテーマとした防災講話の依頼が自治会のほか企業等を含めて数多くありました。 その場で食品ロスを少なくする家庭内流通備蓄要領の徹底等を市民へ啓発することができました。			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
地区防災計画については、自治会連合に加入している10自治会から提出があり、現在調整中となっています。調整後（令和2年度）は、地域防災計画に位置付ける予定です。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	引き続き、防災講話等を通じて、海老名市の防災対策として無駄のない家庭内流通備蓄の紹介により、「食品ロス」及び「防災」の両面的な対策をおおむね実施することができました。 昨年度に比べ、防災意識啓発活動の実績値は増加しましたが、今後は、自治会数＝自主防災訓練実施回数を目指したいと考えています。	
	内部環境評価	3	担当部課環境評価を支持します。 今後も、自主防災訓練の実施回数の増加に取り組んでいただくとともに、災害発生時における人的被害等の防止及び被害の最小化を目指し、調整中となっている地域防災計画の作成を進めていただきたい。	

# 外部環境評価 事前評価シート

環境基本計画の体系				
II 地域環境	ii 海老名市の特性を活かそう	1 美しい都市景観の形成		
項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
39	都市計画課	都市計画制度等の活用によるまちづくりの推進	3	3
評価の点数	外部評価の結果		評価者	
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた		伊藤委員	
判断理由及び評価内容				
<p>開発行為や一定以上の建築物の建築の際に届出・通知が義務なら、それをしない場合は違法行為なのでは？目標指標の設定に違和感があります。チェックシートの様式変更のようなことなど、事業者に理解してもらう仕組みを目標にするべきでは？ 今回の評価では、目標を達成しているのでこのように評価しました。</p>				



環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	都市計画制度等の活用によるまちづくりの推進		事業コード	39
部	まちづくり部	課	都市計画課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ii 海老名市の特性を活かそう			
	1 美しい都市景観の形成			
目的目標	住みよいまちづくり条例や景観推進計画等まちづくりのルールに基づいて、自然環境と調和しながら持続的に発展するまちづくりを目指します。			
目標指標	目標値	実績値		
住みよいまちづくり条例に基づく協議対象案件に対して景観届出制度の周知徹底	100%	100%		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	地域に配慮し、環境を保全するまちづくりの推進	開発事業による廃棄物の増加		
令和元年度	地域に配慮し、環境を保全するまちづくりの推進	開発事業による廃棄物の増加		
令和2年度	地域に配慮し、環境を保全するまちづくりの推進	開発事業による廃棄物の増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	開発事業に関する説明や意見聴取等	良好なまちづくりを推進するため必要な助言及び指導		
令和元年度	開発事業に関する説明や意見聴取等	良好なまちづくりを推進するため必要な助言及び指導		
令和2年度	開発事業に関する説明や意見聴取等	良好なまちづくりを推進するため必要な助言及び指導		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>景観法、海老名市景観条例に基づき、開発行為や一定以上の建築物の建築等の際には届出・通知を義務付けています。その際、「海老名市景観推進計画」で定める景観形成のルールに基づいた審査・指導を行うことで、美しい景観形成に取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度の届出、通知数 届出：52件 通知：1件</li> <li>※通知は国や地方公共団体が行う事業です。</li> </ul>			
平成30年度	<p>景観法、海老名市景観条例に基づき、開発行為や一定以上の建築物の建築等の際には届出・通知を義務付けています。その際、「海老名市景観推進計画」で定める景観形成のルールに基づいた審査・指導を行うことで、美しい景観形成に取り組んでいます。</p> <p>また、海老名市生産緑地地区の区域の規模に関する条例の改正を行った。（平成30年12月18日公布・施行）あわせて、海老名市生産緑地地区指定基準の見直しを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度の届出、通知数 届出：57件 通知：4件</li> <li>※通知は国や地方公共団体が行う事業です。</li> </ul>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
平成30年度に景観推進計画及び景観条例施行規則を変更し、眺望店の追加、チェックシートの様式変更等を行ったことから、開発事業等に伴う、景観へ配慮すべき事項について、引き続き事業者へ周知を図っていきます。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	開発事業等に合わせて、景観形成に関する審査・指導を行い（建築物の色彩、屋外設備、植栽計画等）、良好な景観まちづくりに努めました。	
	内部環境評価	3	担当部環境評価の内容を支持します。引き続き、美しい景観のまちづくりを推進することを期待します。	

# 外部環境評価 事前評価シート

環境基本計画の体系				
Ⅱ 地域環境	ii 海老名市の特性を活かそう	2 丘陵地・緑地の保全		
項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
43	住宅公園課	緑の保全・創造・啓発	3	3
評価の点数	外部評価の結果			
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた		大橋委員	
判断理由及び評価内容				
<p>1. 「緑地の管理」は樹木や天候の状態で目標値として取り組みは難しいと判断されたことや緑地の規模拡大等は民間の持ち主の意向、申請の部分が大きいため目標としていないことについては、今後検討する余地があります。「写真コンクール」や「ポスターコンクール」等だけでは積極的な「緑の保全・創造・啓発」の真の目標には遠いと思います。評価は3とします。</p>				

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	緑の保全・創造・啓発		事業コード	43
部	まちづくり部	課	住宅公園課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ii 海老名市の特性を活かそう			
	2 丘陵地・緑地の保全			
目的目標	身近な緑の保全・創造のため、市民一人ひとりの意識高揚・活動実践と、市の支援を組み合わせ、緑に恵まれたまちの形成を目指します。			
目標指標	目標値	実績値		
花と緑の写真コンクール応募件数	750件	765件		
緑化ポスターコンクール応募件数	900件	572件		
地域緑化事業申請件数	20件	20件		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	緑の保全・創造に係る啓発、温室効果ガス吸収作用の保全創造	—		
令和元年度	緑の保全・創造に係る啓発、温室効果ガス吸収作用の保全創造	—		
令和2年度	緑の保全・創造に係る啓発、温室効果ガス吸収作用の保全創造	—		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	緑地等からの落ち葉による苦情（剪定や伐採を希望）、樹木を剪定伐採したことによる景観上の苦情（樹木の維持を希望）	景観等にも配慮した計画的な剪定等維持管理		
令和元年度	緑地等からの落ち葉による苦情（剪定や伐採を希望）、樹木を剪定伐採したことによる景観上の苦情（樹木の維持を希望）	景観等にも配慮した計画的な剪定等維持管理		
令和2年度	緑地等からの落ち葉による苦情（剪定や伐採を希望）、樹木を剪定伐採したことによる景観上の苦情（樹木の維持を希望）	景観等にも配慮した計画的な剪定等維持管理		
具体的活動の内容				
令和元年度	花とみどりの写真コンクール及び緑化ポスターを開催し、土曜開庁日と日程を合わせて、市役所1階で表彰式を行いました。			
平成30年度	花とみどりの写真コンクール及び緑化ポスターを開催し、「エコカーフェスタ」と「バス利用感謝デー2018」あわせて海老名駅西口中央広場で表彰式を行いました。			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
表彰式を土曜開庁日に合わせて、市役所1階で行った。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課 環境評価	3	花と緑の写真コンクールにおいては、多くの市民から作品の応募があり、市民に対する意識の高揚に寄与したと考えられる。一方、緑化ポスターコンクールへの応募の件数は目標件数に届かなかったため。	
	内部 環境評価	3	担当部環境評価を支持します。 目標指標を全体的にみると実績値は目標値を上回っており、緑の保全・創造に対する市民の意識の高揚等が図られていると思います。今後は、目標値の見直し等も考えながらさらに緑化に対する意識の高揚等に努めていただけるようお願いします。	

# 外部環境評価 事前評価シート

環境基本計画の体系				
Ⅱ 地域環境		ii 海老名市の特性を活かそう		3 農業の振興
項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
23	農政課	市民農園の推進	3	3
評価の点数	外部評価の結果		評価者	
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた		伊藤委員	
判断理由及び評価内容				
<p>市民農園の利用率が目標に達していない理由として住宅地（居住地？）近辺の希望が多いと解析されているが、それを克服する方法が見出されていないのではないか？また、PRの方法がありきたりで、市民に浸透していないのではないのでしょうか？市民の関心を高めるために従来とは違った方法を検討して頂きたい。</p> <p>そういった意味で、野菜作りの講習会の開催は参加人数が少なかったが、こういった施策は有効だと思いますので、この評価になりました。</p> <p>こんなことがPR方法の一つだと思いますので、さらに多角的な検討を進めて頂きたい。</p>				

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	市民農園の推進		事業コード	23
部	経済環境部	課	農政課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ii 海老名市の特性を活かそう			
	3 農業の振興			
目的目標	<p>荒廃農地の発生を予防し、有効活用するため、設置した市民農園を市民に利用してもらうことで、地域の景観向上、市民の農業への関心を高める。</p>			
目標指標	目標値	実績値		
市民農園利用率	92%	85%		
市民農園のPR	1回	1回		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	自然環境の保全、遊休農地、耕作放棄地の減少	市民農園整備にかかる廃棄物の増加、農園巡回時の自動車使用による排気ガスの増加		
令和元年度	自然環境の保全、遊休農地、耕作放棄地の減少	市民農園整備にかかる廃棄物の増加、農園巡回時の自動車使用による排気ガスの増加		
令和2年度	自然環境の保全、遊休農地、耕作放棄地の減少	市民農園整備にかかる廃棄物の増加、農園巡回時の自動車使用による排気ガスの増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	利用者のマナー違反による苦情	迅速な現場対応		
令和元年度	利用者のマナー違反による苦情	迅速な現場対応		
令和2年度	利用者のマナー違反による苦情	迅速な現場対応		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>市民農園23箇所580区画の維持管理を行いました。 新規農園利用者募集の際は、広報やホームページを活用し、広く周知を行いました。 JAさがみの農業技術顧問に講師を依頼し、野菜作り講習会を実施しました。（参加者：28名）</p>			
平成30年度	<p>新規農園利用者募集の際は、広報やホームページで広く周知を行いました。 随時農園利用者募集の際は、空き区画情報を随時更新してホームページで周知しました。</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>市民農園は利用者の利便性の面から住宅地周辺の農園に希望者が集中してしまう傾向があり、市内における農園の適正配置が課題となっています。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	市民農園は市民に対する農業への理解を深めるとともに、余暇を楽しむ場であることから、利用者の多様化したニーズを把握し、今後の市民農園の在り方を研究していきます。	
	内部環境評価	3	<p>担当部環境評価の内容を支持します。 昨年度に引き続き全体の目標値を達成できなかったことは残念ですが、利用率が9割近くを維持していることは、市民のニーズを捉えた農園運営の結果として評価できます。 市民農園の在り方を研究することで、目標値を達成できることを期待します。</p>	

# 外部環境評価 事前評価シート

## 環境基本計画の体系

II 地域環境	ii 海老名市の特性を活かそう	4 都市環境
---------	-----------------	--------

項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
20	商工課	商店街共同施設維持管理費の支援	4	4
46	市街地整備課	自転車駐車場等の整備	3	3

評価の点数	外部評価の結果	評価者
4	計画を上回る環境配慮を実施できた	後藤委員

## 判断理由及び評価内容

街路灯維持費補助、駐輪場の収容台数の確保とも当初の目標を達成したため評価したい。  
 特に、LED化においてはエネルギーの削減もさることながら、輝度の向上により防犯上の効果もあり海老名市イメージアップにも寄与していきます。今後も、継続的に補助を進めていただきたい。  
 また、駐輪場の維持においては、コロナ禍のため自転車の利用は密を避ける手段としても有効のため、withコロナとしての自転車活用の拡大も期待します。

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	商店街共同施設維持管理費の支援		事業コード	20
部	経済環境部	課	商工課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ii 海老名市の特性を活かそう			
	4 都市環境			
目的目標	街路灯の設置費及び維持費の助成により、商店街の費用負担を軽減し、商業の振興を図るとともに、LED街路灯の設置を推進することにより、環境に配慮した商店街づくりを目指します。			
目標指標		目標値	実績値	
街路灯維持費の補助		9件	9件	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	LEDによる省エネルギー化、LED化による電球の耐用年数の増加（廃棄物削減）	LED街路灯設置工事時の騒音等（工事を実施した場合のみ）		
令和元年度	LEDによる省エネルギー化、LED化による電球の耐用年数の増加（廃棄物削減）	LED街路灯設置工事時の騒音等（工事を実施した場合のみ）		
令和2年度	LEDによる省エネルギー化、LED化による電球の耐用年数の増加（廃棄物削減）	LED街路灯設置工事時の騒音等（工事を実施した場合のみ）		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	LED街路灯設置工事時に関する騒音苦情等	設置工事実施時の事前周知等の実施		
令和元年度	LED街路灯設置工事時に関する騒音苦情等	設置工事実施時の事前周知等の実施		
令和2年度	LED街路灯設置工事時に関する騒音苦情等	設置工事実施時の事前周知等の実施		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>商店街団体が設置する街路灯の電気料や維持管理費等に対して、補助金を交付しました。また、観音下通り商栄会及び厚木駅前栄光会が、市の助成金を活用してLEDの街路灯に改修しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街路灯数：201基</li> <li>・街路灯電気料：1,885,297円</li> <li>・維持管理費：603,000円</li> <li>・賠償保険料：101,840円</li> </ul> <p style="text-align: right;">計2,590,137円</p>			
平成30年度	<p>商店街団体が設置する街路灯の電気料や維持管理費等に対して、補助金を交付しました。また、杉久保サンフレール商店会が、市の助成金を活用してLEDの街路灯に改修しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街路灯数：201基</li> <li>・街路灯電気料：1,939,421円</li> <li>・維持管理費：603,000円</li> <li>・賠償保険料：100,570円</li> </ul> <p style="text-align: right;">計2,642,991円</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
観音下通り商栄会及び厚木駅前栄光会がLEDの街路灯に改修したことにより、省エネルギー化が図られました。引き続き、環境に配慮した商店街づくりを推進します。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	4	LEDの街路灯が増えたことにより、省エネルギー化が図られました。	
	内部環境評価	4	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>目標値以上にLEDの街路灯が増えていることから、計画以上の環境配慮が確認できました。これにより、環境に配慮した商店街づくりが推進されています。</p>	

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	自転車駐輪場等の整備		事業コード	46
部	まちづくり部	課	市街地整備課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ii 海老名市の特性を活かそう			
	4 都市環境			
目的目標	駐輪場を整備することで自転車利用を促進し、排気ガス削減を図ります。			
目標指標	目標値	実績値		
海老名市駐輪場自転車収容台数	4603台	4603台		
	有益影響	有害影響		
平成30年度	良好な都市環境の整備、排気ガスの削減	廃棄物の増加（整備等実施時）		
令和元年度	良好な都市環境の整備、排気ガスの削減	廃棄物の増加（整備等実施時）		
令和2年度	良好な都市環境の整備、排気ガスの削減	廃棄物の増加（整備等実施時）		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	駐車場の利用についての意見等	指定管理者による対応等（市と情報共有）		
令和元年度	駐車場の利用についての意見等	指定管理者による対応等（市と情報共有）		
令和2年度	駐車場の利用についての意見等	指定管理者による対応等（市と情報共有）		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>今年度も前年同様、駐輪場の駐車可能台数を確保することにより、排気ガスの削減を実施した。また、利用者数についても、前年化と同程度の実績があり、また、レンタサイクル事業（年間240台の運用数）も実施している。</p> <p>定期利用実績…44,837台 一時利用実績…月平均38.5台</p>			
平成30年度	<p>前年に引き続き約4,300台の自転車等の駐車スペースを確保することにより、排気ガスの削減に繋がった。その他、東口第2駐輪場の管理小屋の建て替えを実施し、労働環境の改善を実施した。</p> <p>市営の7駐輪場における年間利用数 約4万台（人）以上…定期利用（別途、一時利用も有り）</p> <p>・他に、レンタサイクル事業も実施しており、排ガス削減の一助となっている。</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>利用者へのアンケートを実施した結果、総じて好評であったが、一部、ラックの構造の問題等の使い勝手について不満足意見があった。ただ、すぐに対応できないものであることが多く、更には件数が少ないため、暫くは様子見とする。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	前年度レベルで自転車駐輪場の駐車可能台数を確保することが、排気ガスの削減に繋がることに加えて、実績値にもある通り、当初に掲げた目標を達成できたため。	
	内部環境評価	3	<p>担当部課環境評価を支持します。</p> <p>自転車は排ガスの削減につながる有益な手段であり、自転車駐輪場の運営は環境に配慮した有益な施設と考えます。今後も継続して実施していただきたい。</p>	



# 外部環境評価 事前評価シート

## 環境基本計画の体系

II 地域環境	ii 海老名市の特性を活かそう	5 歴史的遺産等の保護と活用
---------	-----------------	----------------

項番	担当課	事務事業名	環境評価	
			担当	内部
63	教育総務課	相模国分寺跡の整備活用	3	3
65	教育総務課	文化財の保護	3	3

評価の点数	外部評価の結果	
4	計画を上回る環境配慮を実施できた	大橋委員

## 判断理由及び評価内容

1. 「相模国分寺跡の整備活用」では「史跡散策来訪者は多い」や「住民利用者の史跡の活用」をEMSを活用した施策（この部分は「環境課」が一緒になって構築すると良い。）で見える化するとすばらしい活動になります。また、「温故館の職員が毎朝ゴミ拾いをしながら史跡の確認をしている」ことを日誌に作成し、所管課に報告している活動がEMSを活用した施策にまとめればさらに良くなります。現場の活動が地味だが光っている活動で評価できます。

2. 「文化財の保護」では「活用事業」として散策ツアー一年4回実施し、文化財への関心の深まりなど好評との成果をあげています。アンケートから次年度への目標の検討を考えるなどこれが「EMSの活用」です。また、「適切な管理」に向けて「文化財の種類ごとに管理計画の作成」を検討されています。これも「EMSの活用」です。（環境課とも一緒に取り組んで欲しいと思います。）

3. 1, 2の活動からまさに「EMSの活用」の実践につなげる活動の期待として評価4とします。

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	相模国分寺跡の整備活用		事業コード	63
部	教育部	課	教育総務課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ii 海老名市の特性を活かそう			
	5 歴史的遺産等の保護と活用			
目的目標	海老名の歴史と文化財を後世に伝えるとともに、史跡地内の植栽の適正な維持管理を実施し環境保全に努めます。			
目標指標		目標値	実績値	
敷地内植栽剪定及び草刈等による適正な維持管理		20回	21回	
用地買収		1件	1件	
用地買収に向けての協議		1件	2件	
	有益影響	有害影響		
平成30年度	森林資源の保護	自動車等使用による排気ガスの増加		
令和元年度	森林資源の保護	自動車等使用による排気ガスの増加		
令和2年度	森林資源の保護	自動車等使用による排気ガスの増加		
	想定されるコミュニケーション	コミュニケーションへの対応		
平成30年度	近隣住民からの苦情	迅速な現場対応		
令和元年度	近隣住民からの苦情	迅速な現場対応		
令和2年度	近隣住民からの苦情	迅速な現場対応		
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>史跡地講堂西側に位置する土地を公有化し、史跡の保存と活用を図りました。 七重塔前の案内板の板面交換、ベンチの修理を行いました。 史跡地内は、樹木剪定や定期的な草刈を行うとともに、剪定枝をチップ化して通路やベンチ下に敷設し、適正な維持管理を行いました。 今後の整備計画等の基礎情報とするために、史跡相模国分寺跡第12次調査として、東側区画溝の確認調査を行いました。</p>			
平成30年度	<p>史跡地南東に位置する土地を公有化し、史跡の保存と活用を図りました。 来訪者への案内用の大型木製案内板、通過する人に向けての周知のためのモニユメント型案内板の設置及び劣化した既存案内板4基の修繕を行ないました。 案内板には、QRコード読取方式による動画情報取得サービス付加し、より詳しい情報を提供できるようにしました。 旧大型木製案内板を撤去した塔跡地区北西入口について、地面に凹凸があり安全及び景観上問題があったため、その部分を簡易舗装し、整備しました。 定期的な草刈を委託契約し、適正な維持管理を行いました。 相模国分寺むかしまつり、地元地域団体による盆踊りや凧揚げ大会等で利用されました。</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
近隣住民による日常的な利用や史跡散策としての来訪者は多く、活用されました。更なる利活用の検討が課題となっています。買収事業については、継続的な協議が必要です。				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	4月～11月にかけて定期的に草刈を行い、また樹木の剪定を行う等、史跡地内の植栽の適正な維持管理を実施しました。	
	内部環境評価	3	<p>適正な維持管理がされていると判断され、担当部課環境評価を支持します。 今後も史跡保護を前提としながら、環境・景観に配慮し、継続的な維持管理と利活用に努めてください。 また買収事業について協議を継続してください。</p>	

環境管理計画・環境評価調書

事務事業名	文化財の保護		事業コード	65
部	教育部	課	教育総務課	
計画体系	Ⅱ 地域環境			
	ii 海老名市の特性を活かそう			
	5 歴史的遺産等の保護と活用			
目的目標	海老名の歴史及び文化財や天然記念物を後世に伝え、保護に努めます。			
目標指標	目標値		実績値	
天然記念物の適正な病虫害防除、保存修理	1回		3回	
史跡散策等文化財関連イベントの開催	5回		5回	
	有益影響		有害影響	
平成30年度	森林資源（天然記念物）の保護		自動車等使用による排気ガスの増加	
令和元年度	森林資源（天然記念物）の保護		自動車等使用による排気ガスの増加	
令和2年度	森林資源（天然記念物）の保護		自動車等使用による排気ガスの増加	
	想定されるコミュニケーション		コミュニケーションへの対応	
平成30年度	近隣住民からの苦情		迅速な現場対応	
令和元年度	近隣住民からの苦情		迅速な現場対応	
令和2年度	近隣住民からの苦情		迅速な現場対応	
具体的活動の内容				
令和元年度	<p>県指定天然記念物「有馬のはるにれ」の病虫害防除を行いました。                  県指定天然記念物「海老名の大櫨」の樹冠軽減のための剪定と落枝防止のワイヤー支柱交換を行い、下草刈りがボランティアにより行われました。                  史跡秋葉山古墳群及び今福薬医門公園、浅井の水の定期的な草刈を委託契約し、適正な維持管理を行いました。                  海老名文化財探求舎事業として、史跡散策や歴史絵手紙事業、勾玉づくり、石器づくり等の活用事業を行いました。                  指定重要文化財等の指定基準等制定等、文化財関連例規の整備を行いました。                  国登録有形文化財に向けた古民家の建物調査を行いました。</p>			
平成30年度	<p>県指定天然記念物「有馬のはるにれ」の病虫害防除を行いました。                  県指定天然記念物「海老名の大櫨」の下草刈りがボランティアにより行われました。                  海老名文化財探求舎事業として、史跡散策や歴史絵手紙事業、勾玉づくり、石器づくり等の活用事業を行いました。                  相模国分寺むかしまつりを実施し、広く文化財を紹介しました。                  市文化財保護条例の改正に向けて事務を行いました。</p>			
令和元年度の変更点及び実施における課題・問題点				
<p>「海老名の大櫨」の枯れ枝範囲が広がっており、定期的な観察が必要になっています。                  継続的な文化財保護と活用事業が求められています。                  史跡秋葉山古墳群では、台風の影響を受けた樹木が多かったため、適切な管理が必要になっています。</p>				
環境評価	評価区分	評価	判断理由及び内容	
	担当部課環境評価	3	<p>県指定天然記念物「有馬のはるにれ」の病虫害防除を2回、県指定天然記念物「海老名の大櫨」の保存修理及び下草刈りを2回行いました。                  史跡秋葉山古墳群及び今福薬医門公園、浅井の水では、4月～11月にかけて定期的に草刈を行い、また樹木の剪定を行なう等、史跡地内の植栽の適正な維持管理を実施しました。</p>	
	内部環境評価	3	<p>適正な維持管理、法令順守されていると判断され、担当部課環境評価を支持します。</p>	